

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南小学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)基礎・基本の定着を目指し、学習に意欲的に向かうことができる資質・能力 (2)自らの学習を調整することができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)各教科に応じた授業内ルーティーンを意識した授業展開の実施(通年) (2)自分の学び方等について振り返ることができる時間の設定(毎単元末)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	①目標の達成状況 ②策の妥当性	結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	【国語】漢字の書き取りや基本的な語彙、文章の主題を捉えるといった「基礎的な知識・技能」に関する設問では、全国平均と同等以上の良好な正答率を示している。一方、複数の文章や図表から必要な情報を横断的に読み取り、指定された条件(理由、指定語句、字数制限など)を満たしながら自分の言葉でまとめ記述する問題において、平均値を下回っている。 【算数】「数と計算」領域における定型的な計算処理や、公式を直接適用して解く基礎的・基本的な設問で高い正答率を維持している。しかし、「データの活用」「変化と関係」「図形」の領域において、複数のグラフや表から必要な数値を正しく読み取り、立式に至った理由や解法の妥当性を言葉や式を用いて説明する設問において正答率の低下が見られる。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	【国語】「思考・判断・表現」の観点において伸びしろが見られる。具体的には、文章中の多様な情報から根拠となる部分を特定する「情報の精査・選別」の力と、選んだ情報を自らの考えの構成に沿って再構築して文章化する「構造化・言語化」の力の育成が必要である。 【算数】「数学的な考え方」および「思考・判断・表現」に焦点を当てる必要がある。単に計算を実行する技能にとどまらず、日常の事象やデータから数値的な関係性を見出し、自らの考えの根拠を言葉、式、図、表を用いて筋道を立てて表現する「数学的コミュニケーション能力」の育成が必要である。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	(1)教科等部会や校内研修を活用して、授業改善に取り組んでいる。発達段階に応じた授業内ルーティーンも構築している段階である。 (2)毎時間ごとに学びの振り返り等に取り組んでいる段階であるがICTを活用するなど、方法等については随時検討しながら取り組んでいる。
	B	
↓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所